

## 基準 4 学生の受入

## (1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①: 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められているか。

## 【観点到に係る状況】

各学部の学科・課程及び大学院研究科の専攻ごとに、それぞれの教育目的に沿って、「入学者受入れの方針」（アドミッション・ポリシー）を全学的に統一した様式の下で定めている（参照資料 4-1-①-ア）。そこでは、学科・課程及び大学院研究科の専攻の目的とそれに対応した「求める学生像」を定めるとともに、学科・課程では、「教育課程の編成・実施方針に沿った教育課程で学ぶために必要な能力や適性等及び入学志願者に求める高等学校等での学習の取り組み」を加え、入学後の具体的な学習内容の例示及び、それを修得するために必要な能力や準備学習等について具体的に明示している（資料 4-1-①-A）。

さらに、入試方法ごとに、その目的、募集対象者、評価方法を定め、各選抜方法の位置付け及び意図を「入学者選抜の基本方針」に明確に示すとともに（資料 4-1-①-B）、評価対象と評価方法及び入試方法区分の対応を明示した一覧表により入学志望者に分かりやすく伝えている（資料 4-1-①-C）。

資料 4-1-①-A: 入学者受入れの方針における「求める学生像」（例示・理工学部数理科学科）

## 【1】求める学生像

理工学部は、幅広い教養と科学・技術の専門的な素養を持ち、社会の広い分野で活躍できる人材を育成することを目的とします。各学科の目的と求める学生像は以下の通りです。

## ■数理科学科

数理科学科では、数学及び数理科学の領域において、広く社会で活躍できる高度な専門的知識・能力を持つ教育者、技術者、研究者となる人材を育成します。そのために、以下に示すような学生を求めています。

- ① 数学および数理科学の分野の専門知識を修得し、論理的思考力、問題解決能力を身につけることを目指す人
- ② 数学および数理科学の分野で、専門的知識を社会に活用できる教育者、技術者を目指す人

## 〔数理科学科で学ぶために必要な能力や適性等および入学志願者に求める高等学校での学習の取り組み〕

数学の概念や論理的厳密性を修得するためには、微分積分、線形代数、集合・位相といった数学の基本的な考え方や手法を身につけることが必要です。そのためには、高等学校で履修する数学の基礎的理解と応用力が不可欠です。さらに、自然科学の基本的な概念や原理・法則を理解して科学的な自然観を養っておくことは、学びの視野を広げることに繋がります。そのため、高等学校で学ぶ理科についても教科書レベルの知識を有していることが望まれます。一方、専門科目に限らず、大学では多くのレポートを書くことが一般的です。レポート作成には、文章の読解力と記述力さらには社会的な常識が必要となります。したがって、高等学校で学ぶ国語や社会の基礎的な学力は必要です。さらに、日本語文献だけでなく英語文献などもセミナー形式で学習しますので、英文の基礎的な読解力だけでなく、自分で辞書等を調べて英文を読みこなす習慣をつけておくことが必要です。

（出典：佐賀大学入学者選抜要項）

## 資料 4-1-①-B： 学部の入学者受入れの方針における「入学者選抜の基本方針」(例示・理工学部)

**【2】入学者選抜の基本方針**

理工学部の教育理念に基づき、教育目的・教育目標・教育方針に沿った人材を育成するために、開放性、客観性、公平性を旨とした多様な入試方法と多面的な評価方法により入学者を受け入れます。

**一般入試**

入学の機会を広く保障するために、大学受験資格を有する全ての者を対象とした一般入試を行います。一般入試では、「前期日程」と「後期日程」の2つの入試区分により、異なる観点から入学希望者を選考します。

**【前期日程】**

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、個別試験によって数学と理科の基礎学力を評価します。

**【後期日程】**

大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、大学入試センター試験によって、高等学校までの学習到達度を評価します。また、各学科の専門科目と特に関係の深い教科および科目について高い学力を有しているかを判断するために、個別試験によって各学科が指定する科目の学力を評価します。

**特別入試**

一般入試とは異なる観点により、多様な能力や資質を有し、本学部への志望動機が明確で意欲的な入学希望者を対象に特別入試を行います。特別入試では、「推薦入試Ⅰ」と「帰国子女」の2つの入試区分により、入学希望者を選考します。

**【推薦入試Ⅰ】**

出願要件を満たし、各高等学校長から推薦されることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、調査書、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

**【帰国子女】**

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、大学で学習するために必要な基礎学力として汎用的な学力を有しているかを判断するために、書類審査、小論文および口頭試問によって評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

**編入学試験**

各学科の専門分野において、さらに高度な専門教育・研究を希望する他教育機関からの学生を対象に3年次編入学試験を行います。編入学試験では、「一般入試」、「推薦入試」および「外国人留学生特別入試」の3つの区分により、入学希望者を選考します。

**【一般入試】**

出願要件を満たしていることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

**【推薦入試】**

出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、推薦書、小論文および口頭試問によって評価します。また、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

**【外国人留学生特別入試】**

出願要件を満たし、各所属長から推薦されることを前提とします。その上で、入学後の学習に必要な日本語の習得について判断するために、日本留学試験の成績を用いて評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、学力検査、口頭試問および成績証明書等によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、面接試験によって評価します。

**私費外国人留学生入試**

外国人留学生に対する入学の機会を保障するために、私費外国人留学生入試を行います。本入試では、大学で学習するために必要な基礎学力な学力として、日本留学試験、TOEFL の成績および面接試験によって入学後の学習に必要な語学力について評価すると同時に、日本留学試験、書類審査および口頭試問によって汎用的な学力を有しているかを評価します。また、専門科目を理解できる基礎学力を有しているかを判断するために、口頭試問によって評価します。さらに、各学科に対する明確な志望動機や入学後の意欲等を有しているかを判断するために、書類審査と面接試験によって評価します。

(出典：佐賀大学入学者選抜要項)

資料 4-1-①-C : 学部の入学者受入れの方針における「入学者選抜の基本方針」(例示・理工学部)

理工学部で学ぶために必要な能力や適性等とその評価方法			
観点	入学後に必要な能力や適性等	評価方法	入試方法
知識・理解・思考・判断	大学で学ぶために必要な汎用的な学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します	一般入試 (前期日程) 一般入試 (後期日程)
		調査書において、高校時代における学業成績、学習態度を評価します。	特別入試 (推薦入試 I)
		小論文によって、「問題理解力」、「文章構成力」、「論理性」、「表現力」、「知識」について評価します。	特別入試 (推薦入試 I) 特別入試 (帰国子女)
		書類審査 (成績証明書等) において、これまでの学習状況を評価します。	特別入試 (帰国子女)
		日本留学試験において、理系科目の成績を用いて評価する。	私費外国人留学生入試
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	私費外国人留学生入試
		日本留学試験において、日本語科目を用いて基本的な語学力を評価します。	私費外国人留学生入試
		TOEFL の得点を用いて、基礎的な英語力を評価します。	私費外国人留学生入試
	専門科目を学ぶために必要な基礎学力	大学入試センター試験において、5教科7科目の総合的な基礎学力を評価します。	一般入試 (前期日程) 一般入試 (後期日程)
		個別試験において、高校で履修する数学、物理および化学に関する標準的な知識と理解、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試 (前期日程)
		個別試験において、高校で履修する数学、物理および化学の中から1つの科目について、深い知識と理解および応用力、数理的な解析力、それに基づく論理的思考と表現力について記述式によって評価します。	一般入試 (後期日程)
		口頭試問によって、志望学科で学ぶために必要な基礎的な知識とその理解力を評価します。	特別入試 (推薦入試 I) 特別入試 (帰国子女) 私費外国人留学生入試 3年次編入学試験 (一般入試)
		学力検査において、数学、英語、専門科目に関する標準的な知識と理解、それに基づく論理的な思考力について記述式によって評価します。	3年次編入学試験 (一般入試)
		書類審査 (成績証明書等) において、これまでの学習状況を評価します。	3年次編入学試験 (一般入試)
興味・関心・態度・意欲	志望学科で学ぶための明確な志望動機や入学後の意欲	調査書において、高校時代における課外活動や志望学科での学習と関連する実績等を評価します。	特別入試 (推薦入試 I)
		推薦書において、推薦の理由を参考にします。	特別入試 (推薦入試 I)
		面接試験において、志望学科で学ぶ動機、意欲、積極性、一般的態度等を評価します。	特別入試 (推薦入試 I) 特別入試 (帰国子女) 私費外国人留学生入試

(出典：佐賀大学入学者選抜要項)

参照資料 4-1-①-A : 佐賀大学入試案内 (入学者受け入れ方針) ウェブサイト ([http://www.sao.saga-u.ac.jp/gakubu\\_ap\\_new.html](http://www.sao.saga-u.ac.jp/gakubu_ap_new.html))

【分析結果とその根拠理由】

各学部の学科・課程及び研究科の専攻ごとに、「求める学生像」及び「入学者選抜の基本方針」を示した受入れ方針が明確に定められている。本学では、「入学者選抜の基本方針」において、求める能力や適性等に関する評価方法を、入試方法との対応表の形で明確に示すことで、その整合性を図っている。

観点 4-1-②： 入学者受入方針に沿って、適切な学生の受入方法が採用されているか。

【観点に係る状況】

学士課程及び大学院課程ともに、入学者受入れの方針の「入学者選抜の基本方針」において、各入試方法の目的、募集対象者、評価方法等を明確に定め、これに基づいて多様な入学者選抜を実施している。

学士課程では、一般入試（前期日程、後期日程）、特別入試（推薦入学Ⅰ、推薦入試Ⅱ、帰国子女、社会人、佐賀県推薦入試、AO入試）、私費外国人留学生入試及び3年次編入学（一般選抜、推薦入学、外国人留学生特別入試）の区分により、入学者選抜を実施しており、大学院修士・博士前期課程では、一般入試、社会人特別入試、推薦による入試、外国人留学生特別入試、現職教員等の入試、秋入学（10月入学）を実施している。また、大学院博士後期課程ではこれらに加え、年4回のAO入試を実施している（資料 4-1-①-B【再掲】、参照資料 4-1-②-ア〜リ）。

「入学者選抜の基本方針」において、「大学で学ぶために必要な基礎学力」と「志望学科等で学ぶための明確な志望動機や入学後の学習意欲」を指標として、これらの能力や資質等を評価する方法を明確にしており（資料 4-1-①-C【再掲】）、これに沿って適切な選抜方法が各入試区分で用いられている。

また、書類審査、小論文、面接、実技検査等における採点・評価基準を明示し（資料 4-1-②-A）、これらの評価方法を配点化している。特に、特別入試では、入学者受入れの方針で重視する能力や資質等については配点を大きくした選抜を行っている（資料 4-1-②-B）。

資料 4-1-②-A : 採点・評価基準

(3) 採点・評価基準					
学部、学科・課程、選修等	対象となる科	実技検査等	内 容		
文 化 教 育 学 部	学校教育課程 教科教育選修	全科	小論文	出題されたテーマについて、記述された内容を、テーマの解釈力、全体的構成力、論理的思考力、文章表現力、個性的な独自の視点に重点を置いてみます。	
			面接	専門領域に関する知識や理解、表現力や積極性、修学意欲等をみます。	
			実技検査	国語教育（書写）では、書写の基礎能力をみます。音楽教育では、弾き歌いによって音楽の基礎能力を評価します。造形教育では、造形に関する基礎的な表現力が身につけているかをみます。体育教育では、選択した4種目の基礎運動能力検査結果をデータに基づき評価します。情報技術教育では、基本的な情報表現・活用能力又はものづくり能力を評価します。	
			調査書・活動歴等報告書等	学業成績、修学状況、部活動、社会活動、各種検定試験合格の有無等をみます。	
	国際文化課程	全科	小論文	問題内容を理解しているか、論理的な思考力を身に付けているか、適切な表現及び的確な記述がなされているかをみます。	
			面接	勉学意欲、国際社会への問題意識等をみます。	
			調査書	学業成績等をみます。	
	人間環境課程	生活・環境・技術選修	全科	小論文	出題されたテーマに対して、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。
				面接	地域・生活文化分野及び環境・技術分野に必要な知識、自己の目標や意欲を問います。
				調査書	学業成績、部活動、社会活動をみます。
		総合学科	全科	小論文	出題されたテーマに対して、テーマの解釈、構成、論理の展開、視点の独自性、表現能力をみます。
				面接	志望分野に必要な基礎知識、自己の目標や意欲を問います。
調査書				学業成績、部活動、社会活動をみます。	
健康福祉・スポーツ選修	全科	小論文	理解力、論理的思考力、着想力、表現力をみます。		
		面接	専門性、意欲関心、判断力、理解力、態度、学習力をみます。		
		実技検査	基礎運動能力、体力、技能をみます。		
		調査書・活動歴等報告書等	学業成績、部活動（競技歴等）、社会活動をみます。		
美術・工芸課程	全科	面接	美術・工芸に関する口頭試問を行い、基礎的知識や制作活動の経験の把握を行うとともに、美術や工芸に関する意欲をみます。学習の目標が明確で、それが美術・工芸課程の内容に合致する者に高い評価を与えます。		
		実技検査	各希望分野の造形力をみます。		
		調査書	特に美術・工芸分野に優れた実績を有する者に高い評価を与えます。なかでも、希望専攻分野における成績が特に優れているかをみます。また、出席状況、クラブ活動、日常生活から充実した高校生活を過ごしたと認められる者で、かつ、美術・工芸課程への入学希望理由が明確であるか等をみます。		

(出典：佐賀大学入学者選抜要項)

資料 4-1-②-B : 特別入試における評価方法の配点

区分		書類審査 (調査書, 推薦書等)	小論文	面接	実技検査	その他	大学入試 センター 試験	総合得点 (総合評価)
文化 教育 学部	国語教育(書写)	200	200	200 (注1)	100	/	/	700
	音楽教育							
	体育教育							
	造形教育	400	200	100 (注1)	300	/	/	1000
	情報技術教育	400	200	200 (注1)	200	/	/	1000
	佐賀県枠	合、否	100	150	/	200 (注2)	/	450
	国際文化課程	100	200	100	/	/	/	400
	人間 環境 課程	生活・環境・ 技術選修	200	100	100 (注1)	/	/	400
	健康福祉・ スポーツ選修	200	100	200	200	/	/	700
	美術・工芸課程	200	/	400	400	/	/	1000
経済 学部	経済学科 商業系の科・ 情報系の科・ 経営学科 総合学科推薦	40	100	2段階 評価 (合、否) (注1)	/	/	/	2段階 評価 (合、否)
	経済学科 普通科又はこ れに準ずると 本学部が認め る科推薦	2段階 評価						
	経営学科							
	経済法学科							
医学 部	医 学 科	380	120	120	/	/	630 (注3)	1250
	看護学 科	150	200	150	/	/	/	500
理工 学部 (推薦入試Ⅰ)	知能情報システム学科	2段階 評価	3段階 評価 (A, B, C)	3段階 評価 (A, B, C) (注1)	/	/	/	総 合 評 価 (良, 可, 不可)
	機能物質化学科							
	機械システム工学科							
	電気電子工学科							
都市工学科								
理工 学部 (推薦入試Ⅱ)	知能情報システム学科	2段階評価 (合、否)	/	/	/	/	1000 (注3)	総合評価 (合、否)
	機能物質化学科							
	機械システム工学科							
	電気電子工学科							
農 学部	応用生物科学科	100	200	200 (注1)	/	/	/	500
	生物環境科学科 生命機能科学科							

(出典：佐賀大学入学者選抜要項)

- 参照資料 4-1-②-ア：佐賀大学入試案内（学部入試）ウェブサイト  
[http://www.sao.saga-u.ac.jp/gakubu/nyuushi\\_gaiyou.html](http://www.sao.saga-u.ac.jp/gakubu/nyuushi_gaiyou.html)
- 参照資料 4-1-②-イ：佐賀大学入試案内（3年次編入学）ウェブサイト  
[http://www.sao.saga-u.ac.jp/sannenjihennyu/hennyu\\_yoko.html](http://www.sao.saga-u.ac.jp/sannenjihennyu/hennyu_yoko.html)
- 参照資料 4-1-②-ウ：佐賀大学入試案内（大学院入試）ウェブサイト  
[http://www.sao.saga-u.ac.jp/daigakuin/daigakuin\\_yoko.html](http://www.sao.saga-u.ac.jp/daigakuin/daigakuin_yoko.html)

## 【分析結果とその根拠理由】

入学者受入れ方針の「入学者選抜の基本方針」において、各入試方法の目的、募集対象者、評価方法等が明確に定められているとともに、各学科・課程等が求める能力や資質等について評価する方法も具体的に示されており、この基本方針に沿って適切な選抜方法が各入試区分で用いられていることから、入学者受入れ方針に沿って適切な選抜方法が採用された多様な入学者選抜を実施している。

## 観点 4-1-③： 入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されているか。

## 【観点到に係る状況】

入学者選抜の実施・運営は、「入学試験関係委員会組織図」(資料 4-1-③-A) に示すように、学長を委員長とする入学試験委員会が掌理し、(1)入学者選抜の基本的事項及び実施に関する重要事項、(2)大学入試センター試験の実施に関する基本的事項、(3)入学試験の運営に関する重要事項を審議している。

入学者選抜方法等の企画・立案については、アドミッションセンターと学部の入試委員で構成する入学者選抜方法等専門委員会において企画案を作成し、入学試験委員会で審議している(別添資料 4-1-③-1)。

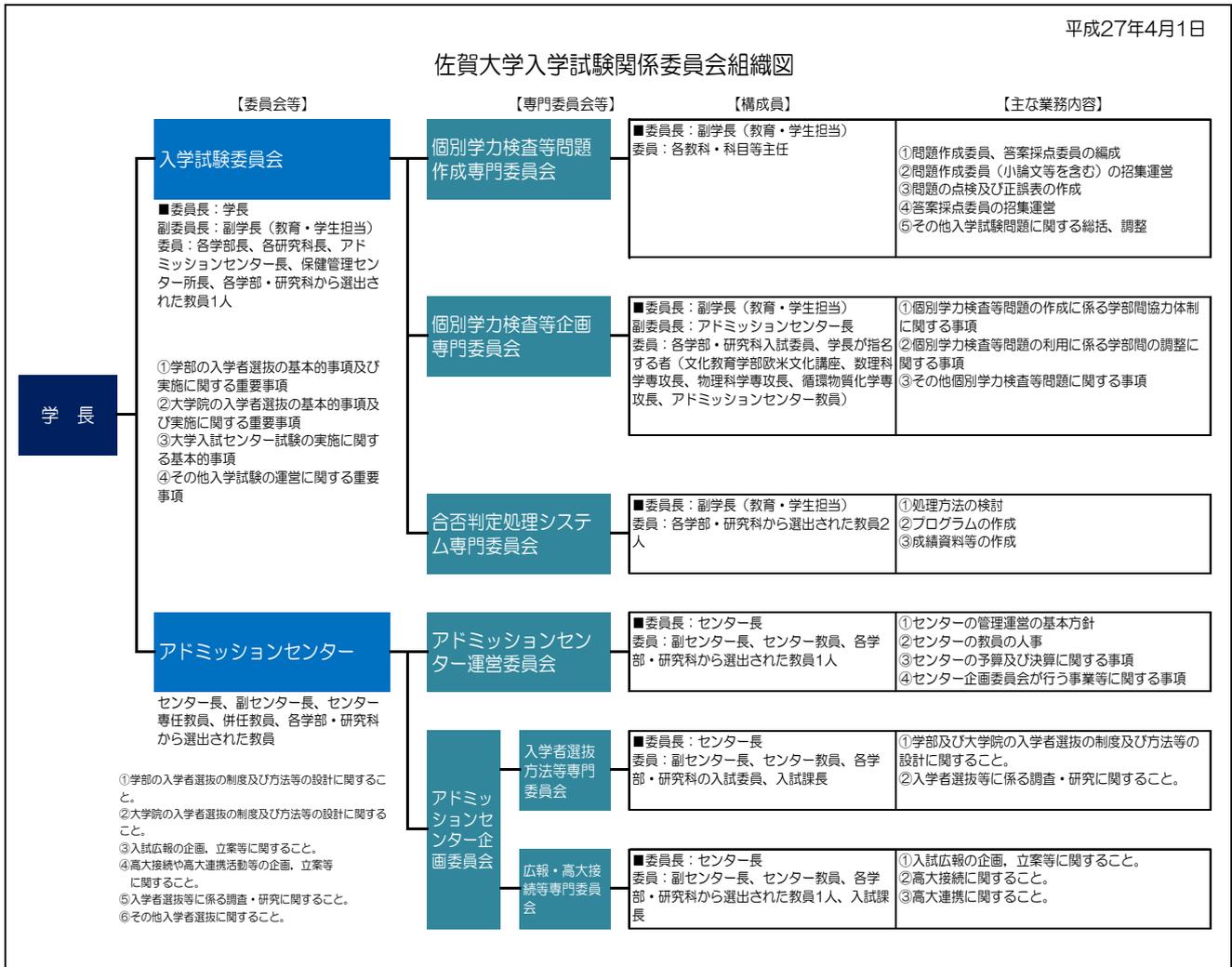
試験問題の作成については、一般入試の個別試験(学力検査)において、全学体制で作題・採点作業を行っており、入試問題の品質維持、チェック機能及び秘匿作業が十分に機能する適切な体制にしている。また、出題関係者と入学者選抜方法等専門委員から構成する個別学力検査等企画専門委員会では、入学者受入れ方針と出題内容の整合性を図るための検討を行っている。合否判定の資料作成等は、入学試験委員会の下に置かれた各専門委員会が行っている。これらは、非公開とし、全学的な組織体制により処理することで、公正な実施を図っている(別添資料 4-1-③-2)。

学士課程において入学者選抜を実施する際は、学長を本部長とする入学試験実施本部を設置し、各試験場に試験場本部を置き、学部長を責任者として円滑・公正に実施している(別添資料 4-1-③-3)。

合否判定は、入学試験委員会の下に置かれた専門委員会が作成した資料に基づき、教授会の議を経て学長が決定している。さらに、実施に関するマニュアルも整備し、通常運用だけでなく危機管理にも備えた体制を整えている(別添資料 4-1-③-4)。特別入試(推薦、AO、社会人、留学生入試など)においては、選考と評価に関する手続きを学部単位で明確に定め、公正な手続きに関する明確な説明ができるように公平性の担保に努めている。

大学院課程の入学者選抜の実施についても、各研究科において、研究科長を総括責任者とし、各実施責任者や担当委員等を定めた体制により、円滑・公正に実施している。合否判定は、研究科ごとに担当の委員会が作成した資料に基づいて、研究科委員会の議を経て学長が決定している(別添資料 4-1-③-5)。

資料 4-1-③-A : 入学試験関係委員会組織図



(出典：アドミッションセンター資料)

別添資料 4-1-③-1：国立大学法人佐賀大学アドミッションセンター規則

別添資料 4-1-③-2：佐賀大学入学試験専門委員会細則

別添資料 4-1-③-3：入学試験実施組織表

別添資料 4-1-③-4：試験運用マニュアル

別添資料 4-1-③-5：大学院入学試験等実施組織図（概要）

【分析結果とその根拠理由】

学長を委員長とする入学試験委員会を中心として、その下に置かれた各専門委員会が各部署の入試委員会と連携して学力検査等の問題作成から判定資料作成までの業務を分掌している。また、入学者選抜の実施においても、入学試験実施本部及び試験場本部からなる全学的な体制で行っている。合否判定は、学部教授会、研究科委員会において厳正に実施されている。このことから、入学者選抜が適切な実施体制により、公正に実施されている。

観点 4-1-④：入学者受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

#### 【観点に係る状況】

検証を行うための組織として、アドミッションセンター企画委員会の下に入学者選抜方法等専門委員会を置き、選抜方法等の内容及び在り方と改善方策等を検討している。また、アドミッションセンターに配置された大学入試を専門とする教員1人は、入学者選抜方法等専門委員会のメンバーとして、選抜方法や制度の在り方について専門的な立場から分析・検討している（別添資料4-1-④-1）。

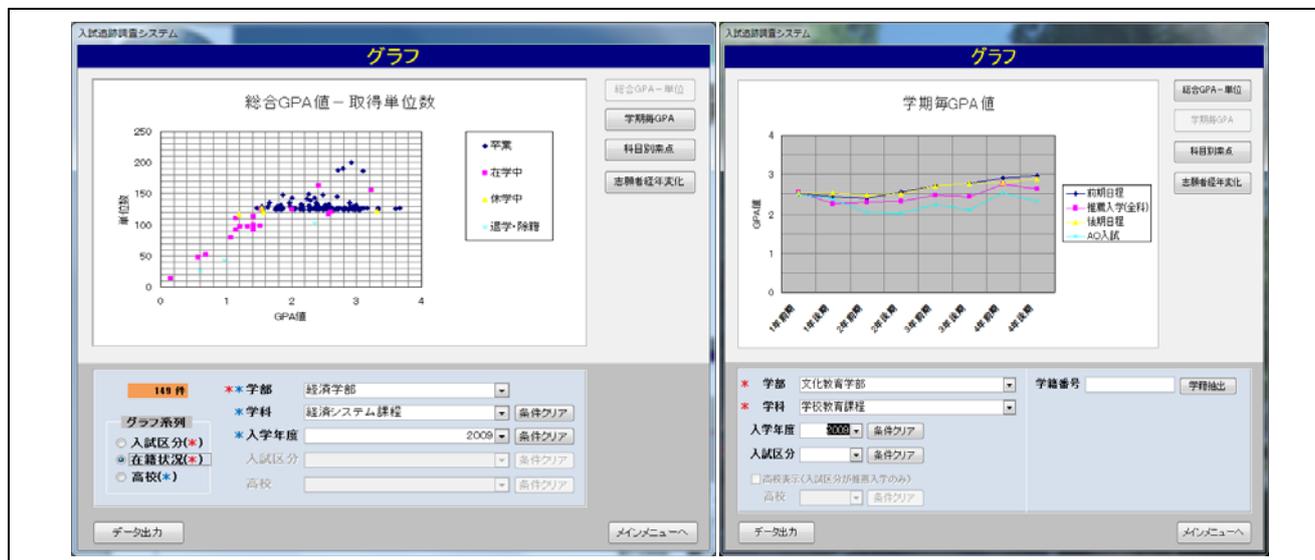
また、入学者の追跡調査システムを開発し、入学者の学修状況を容易に把握できる仕組みを整えている（資料4-1-④-A）。これにより、GPAや修得単位数、入試方法別にみる入学者の成績状況等を把握し、入試方法等を改善するための根拠資料としている。

さらに、IR（Institutional Research）室の情報等（教育産業等が公表するオープンデータ、学生の受賞実績や顕著な取組等）も活用して学業成績以外の要素についても分析対象とすることで、入学者受入れ方針に沿った学生の受入について検討をしている（別添資料4-1-④-2）。

検証・分析結果等は、入学者選抜方法等専門委員会あるいは学部の入学試験委員会等の議論に基づき、選抜方法等の改善に活かしている（資料4-1-④-B、別添資料4-1-④-3～5）。

さらに、入学者選抜については、全学部の全学科・課程を対象とした学長によるヒアリングが実施され、各学科・課程の現状や課題点等についての意見交換を行い、各学科・課程における中長期的な入試制度の再構築についての方針を学長に報告している（別添資料4-1-④-6）。

#### 資料4-1-④-A： 追跡調査システムの画面



(出典：アドミッションセンター資料)

資料 4-1-④-B: 入試方法等の改善事例

部局	改善事例
① 理工学部	後期日程においてセンター試験で測る学力と入学後の GPA を考慮した結果、個別試験を平成 25 年度入試から導入 <u>(別添資料 4-1-④-3)</u>
② 医学部 医学科	基礎学力担保の観点から一般入試における個別試験を総合問題から学科試験へ変更 <u>(別添資料 4-1-④-3)</u>
③ 医学部 理工学部	推薦入試において、基礎学力担保の観点からセンター試験の受験を条件とする推薦入試Ⅱの導入 <u>(別添資料 4-1-④-4)</u>
④ 理工学部	英語力担保の観点から理工学部の前期日程個別試験に英語の導入 <u>(別添資料 4-1-④-5)</u>

(出典：アドミッションセンター資料)

別添資料 4-1-④-1：アドミッションセンター報告書  
 別添資料 4-1-④-2：入学者選抜機能の検証と改善について～入試改革に向けて～  
 別添資料 4-1-④-3：平成 25 年度佐賀大学入学者選抜要項  
 別添資料 4-1-④-4：平成 26 年度佐賀大学入学者選抜要項  
 別添資料 4-1-④-5：全学統一英語能力テスト（TOEIC）に関する分析結果  
 別添資料 4-1-④-6：学長ヒアリングに関する資料

【分析結果とその根拠理由】

学士課程においてはアドミッションセンターと入学者選抜方法等専門委員会が中心となり、大学院課程においては各研究科が、入学者選抜方法に関する検証を通じて入学者受入方針に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組を行い、その結果を入学者選抜の改善に役立てている。

観点 4-2-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

【観点に係る状況】

学士課程の過去 5 年間（平成 23～27 年度）平均入学定員充足率で見ると、編入学を除き各学部とも 1.00 ～1.06 の範囲で学部単位では適正な状況にあり、学科等単位でも入学定員を下回ることは無く、適正な状況である。また、大学院課程においては検討や改善の取組を行っている（資料 4-2-①-A）。

## 資料 4-2-①-A : 入学定員超過率（充足率）の適正化に向けた改善の取組

部局	改善の取組
経済学研究科 修士課程 (入学定員 8 人)	研究科単位では適切な状況にあるが、専攻別では、金融・経済政策専攻（入学定員 4 人）で平成 24 年度入学者が 2 人の不足となっており、入学定員が少ない募集単位が抱える問題があり、打開策の検討を進めている。
医学系研究科 修士課程 (入学定員 31 人)	医学系研究科修士課程看護学専攻（入学定員 16 人）で平成 24 年度及び平成 25 年度に大幅に下回る状況（平成 24 年度充足率 0.68、平成 25 年度充足率 0.37）になったが、平成 26 年以降は、適正化を図っている。博士課程（入学定員 30 人）では、平成 24 年度に大幅に下回る状況（平成 24 年度充足率 0.56）であったが、平成 26 年度から入学定員を 25 人に見直し、社会人学生の積極的受入等の取組によって適正な状況となっている。
工学系研究科 博士前期課程 (入学定員 184 人)	各専攻の平均充足率が 0.97～1.22 の範囲にあり、概ね適正な状況となっている。博士後期課程（入学定員 24 人）は、平成 23 年度及び平成 24 年度に定員充足率が 1.37 となったが、秋期入学を含めた定員管理をすることで、平成 25 年度から適正な状況となっている。

## 【分析結果とその根拠理由】

各学部・研究科の入学定員に対する実入学者数は、定員を大幅に超える又は下回るものは無く適正な状況にある。また、研究科では、秋季入学を含めた定員管理、社会人入学、入学定員の見直しなど、適正化を図る取組がなされている。

## (2) 優れた点及び改善を要する点

## 【優れた点】

- 「入学者選抜の基本方針」において、各選抜方法の目的等が明確に定められているとともに、それに基づいて各学科・課程等が求める能力や資質等についての評価方法が具体的に示されており、受入れ方針の内容が実際の選抜方法に合致したものになっている。このような入学者受入れ方針の実質化は先駆的な取組として優れている。
- 入学者受入れ方針に沿った学生の受入に関して組織的に検証するための体制の整備だけではなく、入学者の追跡調査システムを開発することによって、検証作業の効率化を図っている。

## 【改善を要する点】

- 『高大接続改革実行プラン』（文部科学省、2015）」に沿って、入学者選抜における多面的・総合的評価に向けた手法の開発とともに高大連携活動の在り方の見直しを含めた一体改革にむけた取組を進めていくことが今後の課題である。

